

命令

君、の居ない世界
ただあるのは、
あれ、であり、
それ、であり、
またはその複数
そして、僕、である

人工物にきっちり守られ
閉ざされた部屋で
その、僕が、呻いている

それは既に、部屋、ではない
まさに世界
エゴイスティックな寒々とした世界

その部屋の中を動き回る者と言え
ただ、僕だけ
その他は意思のない者たちだけだ

プラスチック製の柵に沿って
指を滑らせる
あまりに滑らかな触感

パソコンが命令を待っている
キーボードは単なる伝達係りで
その背後に潜むのは巨大なシステム

僕、を閉じ込めるために
機能的、という名の画一性に塗れ
周到に計算され尽くされた部屋

時にここを訪れる異性は
ただ一つの偶然である、僕、を求め
貪るようにこの身体を舐めるのだ

既に偶然性を放棄したこの僕の中に
ひたすら本能の解放を探し

せめてもの慰みを見出そうとして

そのような動物的営みにさえ
お節介を働こうとする者が居る
そのために必死で計算をする、この僕、が

そして、この僕もまた
その後、空虚で吐気のする酔いの中で
システムの監視下に戻ることを意識する

静謐、とは呼べぬ沈黙が支配する
空間性のない巨大な世界
いや、‘反’世界

拳句の果てに、僕から遊離した本能は
もっと、さらに、と喚きたてる
クエリー、クエリー、と

瞬間を繋ぎ合わせただけの
近似的な時間に覆い尽くされている
1秒後には、その60倍の時点では、と

誰もみな、歩き回る必要性さえ
これっぽっちも感じることはない
糸を手繰るためにリールを巻くことだけが必要性を持つ、と

無数の方法があるのだ
既に用意してあるものから選べ、選べ、さあ選べ！
どれもみな計算され尽くされたものばかりだ

お前が自由を握っているのだ、お前が
僕、だけが自問自答するよう強制される
これ、は命令を待っている、待っている、待っている、待っている！

無音の中に回転する命令
明らかに、僕、の声をした命令
僕自身の下した命令じゃないか

気が付くと壁のボードが割れていた
ギターもぐしゃぐしゃになっていた

あらゆる物が散乱していた

その中で、ただひとつ
ディスクの回転する音だけが
低く呟いていた

君、の居ない世界
ただあるのは、
あれ、であり、
それ、であり、
またはその複数
そして、僕、である

(2008.11.29)